

明治大学大学院国際日本学研究科

2013年度

修士学位請求論文要旨

日本の同人誌即売会をモデルとする中国のイベント

およびその参加者に関する研究

—上海の事例を中心に—

国際日本学専攻・ポップカルチャー研究領域

4910122010・朱禾木

本論文では、中国における日本のマンガ同人誌即売会をモデルとする中国のイベント（以下、中国の同人誌即売会）と、その参加者を対象に行った調査について記す。中国の同人誌即売会の参加者は、日本のマンガ・アニメ・ゲームを中心とするサブカルチャーの愛好者と見なされ、中国では俗に「御宅族」と呼ばれている。なお、「御宅族」は日本語の「オタク」の中国語表記であるが、本論においては特に中国のオタクを指す場合に「御宅族」と表記する。

本研究は、中国の同人誌即売会の現状を明らかにするとともに、「御宅族」と見なされるその参加者たちの、性別・年齢・結婚・学歴などの社会学的な特徴について検証することを目的とする。

本論文は5章から構成されている。

第1章「序論」では、本研究の開始にいたる経緯や、研究の背景について述べる。

第2章「中国の同人誌即売会」では、中国の同人誌即売会の形成当初の2007年頃から2013年12月現在までの変遷をまとめるとともに、それ以前から中国にあったマンガ・アニメ関連のイベントとの違いを明確にし、中国の同人誌即売会を定義する。それ以前からあったイベントとは、主に、政府や営利を目的とする法人・商業団体・出版社・放送局等が主催する、マンガ・アニメ・ゲームおよびそれらと関連するコンテンツ全般を扱う総合型のイベント（以下、「総合型^{ドクマン}動漫¹展」）である。そのような比較を踏まえ、代表的な中国の同人誌即売会を5つ選定した上で、その主催者に取材調査を行い、現状について洗い出す。

第3章「先行研究と調査方法」では、中国における「80後」^{バーリンホウ}²と呼ばれる世代の若者文化やサブカルチャーの分野の先行研究と「コミックマーケット35周年調査報告」について詳細なレビューを行い、第2章の中国の同人誌即売会の現状に立脚した仮説を立て、調査方法について述べる。

第4章「「魔都同人祭 COMICUP」のアンケート調査報告」では、「CP11」（同人誌即売会「魔都同人祭 COMICUP」の第11回を表す略称。以下、「CPx」で同様に表記する）と「CP12」で行ったアンケート調査の内容、調査結果、結果分析について報告する。

¹ 「動漫」とは、動画（アニメ）と漫画の略語である。中国語においてはマンガ・アニメ・ゲームなどのサブカルチャーの全般を指す言葉として広く使われている。

² 「80後」とは、中国における用語の1つである。一般的に1980～89年に生まれの世代を指す言葉である。

第5章「考察およびまとめ」では、第4章での調査結果に基づいて考察を行い、「御宅族」にみられる性別・年齢・結婚・学歴などの傾向を探る。その上、今後の研究に残された課題についても言及する。

本論においては、主に次の3点を追求する。

- (1) 中国の同人誌即売会の、イベントとしての成り立ちと現状を把握する。
- (2) 中国の同人誌即売会の参加者の特徴や傾向を明らかにする。
- (3) (2)に基づき、俗に「御宅族」とも呼ばれる、日本のマンガ・アニメ・ゲームを中心とするサブカルチャーの中国における愛好者の実態の一端を明らかにする。

なお、(1)については本論第2章において、(2)については第4章において、(3)については第5章において論ずる。

オタクとは、「コミック、アニメ、ゲーム、パーソナル・コンピュータ、SF、特撮、フィギュアそのほか、互いに深く結びついた一群のサブカルチャーに耽溺する人々の総称」である。(東2001)³

中国の「御宅族」は、1990年代末から2000年前後におけるインターネットの普及とともに形成された⁴。彼らは自ら集まり、フォーラムやコミュニティーを設立し、コミュニケーションを交わしていた⁵。同人誌や自主制作物の頒布について、殆どインターネットや「総合型動漫展」を経由する⁶しかなかったが、同人誌即売会の開催により、「御宅族」たちは初めて時間と空間の障壁を越え、より多くの「同類」と直接顔を合わせることができた。

「御宅族」について、靳麗芳(2008)は「中国の「御宅族」は、圧倒的にアニメ分野に集中していることが特徴である。」⁷、中国の「御宅族」は「おもにアニメ、およびアニメと関連のあるマンガ、同人誌、ゲーム等に趣味を集中させている。ある意味で、中国の「御宅族」は、まだ「オタク文化」の源流となっている日本のマンガ、アニメ、ゲームに限ら

³ 東浩紀 2001年 『動物化するポストモダン オタクから見た日本社会』 講談社 8頁

⁴ 靳麗芳 2008年 「「御宅族(オタク)」, 「80後(バーリンホウ)」と日本アニメー中国における日本アニメの受容をめぐって」 『北海道大学大学院文学研究科研究論集』8, 17-39頁

⁵ 靳麗芳 2008年 同上

⁶ 「和譜社」 2008年 同上

⁷ 靳麗芳 2008年 同上

れているとも言えよう。」⁸と述べた。

数十年中国で暮らしていた、「日中文化交流」と書いてオタ活動と読む」という中国のオタク事情を記述するブログを運営する日本人百元籠羊(2011)は、「アニメや漫画などの日本のオタコンテンツを中心として、幅広く日本のコンテンツや文化に対して興味を持つ層」⁹と述べている。

また、日本のサブカルチャーを受容した「80 後」世代の概況や彼らの日本観について、遠藤誉¹⁰、吳咏梅¹¹らの先行研究では詳しく語られていたが、「御宅族」と呼ばれる人たちが社会的指標において、どのような特徴があるかはまだ指摘されたことがない。

本研究では、斬麗芳、百元籠羊らが指摘した日本のマンガ・アニメ・ゲームを中心とするサブカルチャーを愛好する「御宅族」たちは、単なる趣味嗜好の傾向に止まらず、性別・年齢・結婚・学歴などといった旧来の社会学的な指標においても共通な特徴が存在することを仮説とし、検証する。

調査手法として、第2章で論じた中国の同人誌即売会の定義と現状を踏まえ、上海で開催される「CP11」(2012年12月22日～23日)と「CP12」(2013年6月11日～12日)を調査対象とし、アンケート調査を実施する。アンケート調査項目と問題の設定については、「コミックマーケット30周年記念調査」¹²、「2013年度ACG愛好者匿名社会調査」¹³(図2-1)を参考とした。問題選択肢の設定については、インターネットで事前調査を行い、投票で選出する。調査結果については、「コミックマーケット35周年調査報告」の分析方法を参照し、図表と文字を併用する形で説明と複合分析を行なっていく。

⁸ 斬麗芳 2008年 同上

⁹ 百元籠羊 2011年 『オタ中国人の憂鬱 怒れる中国人を脱力させる日本の萌え力』 武田ランダムハウスジャパン 14頁

¹⁰ 遠藤誉 2008年 『中国動漫新人類』 日経BP社

¹¹ 吳咏梅 2008年 「中国における日本のサブカルチャーとジェンダー」 『思想地図 (vol. 1) 特集・日本』(東浩紀、北田暁大編) 日本放送出版協会

¹² 「コミックマーケット30周年記念調査」アンケート用紙 2004

http://www.comiket.co.jp/info-a/C66/C66catalogue_30emeEnquete/C66catalogue_30emeEnquete.pdf (2012/12/18)

¹³ 「ACG愛好者匿名社会調査」とは、オタクと自称するbitinn氏が運営するサブカルチャーの内容を主体とするブログ「比特客棧的文艺复兴」(<http://bitinn.net/>)が2010年から実施し始め、インターネットを通じて年一回に実施される中国におけるACG全体に概況するアンケート調査である。2013年12月時点までは4回が実施された。調査項目の設定にあたって、ネタとされる茶目な部分があるが、回答者数が圧倒的に多いため、多くの研究者に参考とされている。2013年年始にあたって、第4回「ACG愛好者匿名社会調査」が実施され、アンケートは一週間に渡って各SNSウェブサイト、動画サイト、サブカルチャーコミュニティなどに転載され、最終の有効回答数は4856枚に達し、歴回最多となっていた。

調査結果によって、中国における同人誌即売会に参加する、日本のマンガ・アニメ・ゲームなどのサブカルチャーの愛好者、俗に「御宅族」とも呼ばれる人たちは以下のような特徴があると分析できる。

「15～19 歳」・「20～24 歳」・「25～29 歳」・「30～34 歳」の年齢層における「御宅族」の結婚状況は、中国全国や上海のデータと比べると、未婚率が高いと分かる。また、彼らの最終学歴においては、より高学歴に集中している傾向がある。